令和６年度

# 佐賀県小・中学校学習状況調査
# 及び　全国学力・学習状況調査

## ー 調査結果 と 指導改善のポイント ー

## 中学校国語科

1　はじめに

2　調査結果の概要

3　成果が見られた設問

4　課題が見られた設問

・誤答例と生徒のつまずき

・指導改善のポイント

・授業アイディア例

5　同一生徒の経年比較

6　おわりに

# 1　はじめに

# 1　はじめに



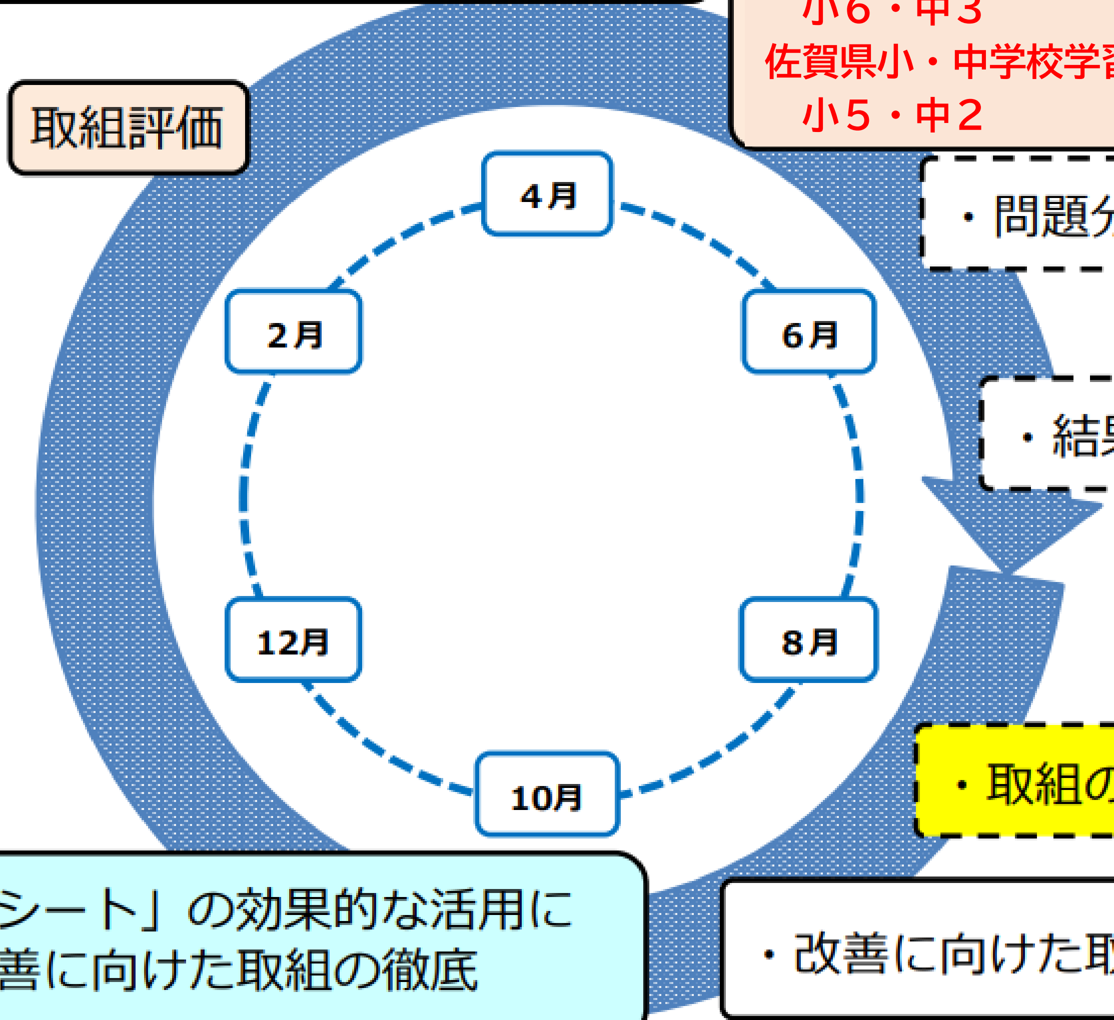
佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

## 令和６年度 学校における学力向上の検証改善サイクル

○1年間の大きなサイクルの中で、個々の取組に関する小さな検証改善を行う

・課題解決に向けた取組の共通認識、円滑な取組のスタート（評価シート）

【令和６年４月１８日】
全国学力・学習状況調査
　小６・中３
佐賀県小・中学校学習状況調査
　小５・中２




・問題分析

・結果分析

・取組の検討

・改善に向けた取組

○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

検証改善サイクルを確立・機能させることにより、児童生徒の学力向上を図りましょう。

# 2　調査結果の概要

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

### 中２国語

| 年度 | 目標値 | 県平均正答率 | 目標値との差（県平均正答率－目標値） |
|---|---|---|---|
| R６ | 63.5 % | 62.2 % | －1.3 |
| R５ | 61.3 % | 59.4 % | －1.9 |

※目標値･･･学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R6の県平均正答率は、目標値を1.３ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

# 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

## 中２国語

### 知識・技能

| 年度 | 目標値 | 県平均正答率 | 目標値との差（県平均正答率－目標値） |
|---|---|---|---|
| R６ | 70.4 % | 71.6 % | +1.2 |
| R５ | 61.2 % | 61.0 % | －0.2 |

R6の県平均正答率は、目標値を1. 2ポイント上回った。
また、R5では目標値を下回ったが、R6では目標値を上回った。

# 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《事項別》

## 中２国語

| 事項 | 年度 | 目標値 | 県平均正答率 | 目標値との差（県平均正答率－目標値） |
|---|---|---|---|---|
| (1)　言葉の特徴や使い方に関する事項 | R６ | 70.6％ | 70.4％ | －0.2 |
| | R５ | 65.6％ | 64.6％ | －1.0 |
| (2)　情報の扱い方に関する事項 | R６ | 62.5％ | 68.4％ | +5.9 |
| | R５ | 40.0％ | 40.5％ | +0.5 |
| (3)　我が国の言語文化に関する事項 | R６ | 85.0％ | 89.1％ | +4.1 |
| | R５ | 85.0％ | 89.7％ | +4.7 |

R6の県平均正答率は、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で目標値を上回った。
また、R5と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で改善が見られた。

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

### 中２国語

**思考・判断・表現**

| 年度 | 目標値 | 県平均正答率 |
|---|---|---|
| R６ | 58.1 % | 55.9 % |
| R５ | 57.5 % | 54.6 % |

目標値との差
（県平均正答率－目標値）

－2.2

－2.9

R6の県平均正答率は、目標値を2. 2ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

# 2　調査結果の概要



## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

**中２国語**

| 領域 | 年度 | 目標値 | 県平均正答率 | 目標値との差（県平均正答率－目標値） |
|---|---|---|---|---|
| A　話すこと・聞くこと | R６ | 56.7 % | 54.3 % | －2.4 |
| | R５ | 66.7 % | 63.5 % | －3.2 |
| B　書くこと | R６ | 58.8 % | 49.9 % | －8.9 |
| | R５ | 53.6 % | 49.2 % | －4.4 |
| C　読むこと | R６ | 59.2 % | 61.6 % | ＋2.4 |
| | R５ | 57.5 % | 56.4 % | －1.1 |

R6の県平均正答率は、「読むこと」で目標値を上回った。
また、R5と比べると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で改善が見られた。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

**中３国語**

| 年度 | 全国 平均正答率 | 県 平均正答率 | 全国平均正答率との差（県平均正答率－全国平均正答率） |
|---|---|---|---|
| R６ | 58.1 % | 55 % | －3.1 |
| R５ | 69.8 % | 68 % | －1.8 |

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数で提供されています。

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を3.１ポイント下回った。
また、R5と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

### 中３国語

**知識・技能**

| 年度 | 全国 平均正答率 | 県 平均正答率 | 全国平均正答率との差（県平均正答率－全国平均正答率） |
|---|---|---|---|
| R６ | 62.0 ％ | 59.6 ％ | －2.4 |
| R５ | 69.4 ％ | 68.2 ％ | －1.2 |

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を2．4ポイント下回った。
また、R5と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

# 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《事項別》

## 中３国語

| 事項 | 年度 | 全国 平均正答率 | 県 平均正答率 | 全国平均正答率との差（県平均正答率－全国平均正答率） |
|---|---|---|---|---|
| (1)　言葉の特徴や使い方に関する事項 | R６ | 59.2％ | 56.0％ | －3.2 |
| | R５ | 67.5％ | 66.3％ | －1.2 |
| (2)　情報の扱い方に関する事項 | R６ | 59.6％ | 58.3％ | －1.3 |
| | R５ | 63.4％ | 61.9％ | －1.5 |
| (3)　我が国の言語文化に関する事項 | R６ | 75.6％ | 73.0％ | －2.6 |
| | R５ | 74.7％ | 73.6％ | －1.1 |

R6の県平均正答率は、全ての事項で全国平均正答率を下回った。
しかし、R5と比べると、「情報の扱い方に関する事項」で改善が見られた。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

### 中３国語

**思考・判断・表現**

| 年度 | 全国 平均正答率 | 県 平均正答率 | 全国平均正答率との差（県平均正答率－全国平均正答率） |
|---|---|---|---|
| R６ | 55.4 % | 51.5 % | －3.9 |
| R５ | 69.7 % | 67.7 % | －2.0 |

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を3. 9ポイント下回った。
また、R5と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

# 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

## 中３国語

| 領域 | 年度 | 全国 平均正答率 | 県 平均正答率 | 全国平均正答率との差（県平均正答率－全国平均正答率） |
|---|---|---|---|---|
| A　話すこと・聞くこと | R６ | 58.8％ | 54.5％ | －4.3 |
| | R５ | 82.2％ | 82.7％ | +0.5 |
| B　書くこと | R６ | 65.3％ | 60.5％ | －4.8 |
| | R５ | 63.2％ | 60.9％ | －2.3 |
| C　読むこと | R６ | 47.9％ | 44.6％ | －3.3 |
| | R５ | 63.7％ | 59.9％ | －3.8 |

R6の県平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を下回った。
しかし、R5と比べると、「読むこと」で改善が見られた。

# 2　調査結果の概要

　第２学年では、令和５年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

○ 教科全体の県平均正答率

○ 観点別の県平均正答率（「知識・技能」「思考・判断・表現」）

○ 事項別の県平均正答率(「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」)

○ 領域別の県平均正答率（「話すこと・聞くこと」「読むこと」）

　第３学年では、令和５年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

○ 事項別の県平均正答率（「情報の扱い方に関する事項」）

○ 領域別の県平均正答率（「読むこと」）

# 3　成果が見られた設問

# ３　成果が見られた設問

◇ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えることができる。

◇ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

◇ 情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができる。

# 4　課題が見られた設問

# 4　課題が見られた設問



◆ 話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。

◆ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。

◆ 自分の考えを明確にして書くことができる。

◆ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

〈R5県調査及び全国調査で見られた共通の課題〉

◆ 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

## 指導改善のポイント

　話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

□　話を聞く際に、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識し、必要な内容を記録する学習活動を設定する。

□　話が終わった時点で、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、質問を行う学習活動を設定する。

□　聞き取ったことと自分の考えとを比較し、その共通点や相違点を踏まえて、自分の考えをまとめる学習活動を設定する。

## 指導改善のポイント

　話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

□　何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識することができるように、話合いの序盤で話題について共通理解する学習活動を設定する。

□　発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理した上で、発言を結び付けて自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話合いの内容を整理して述べる学習活動を設定する。

## 指導改善のポイント

　自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

□　自分の考えを書く際に、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめた上で、自分の考えだけでなく、その理由も記述するような学習活動を設定する。

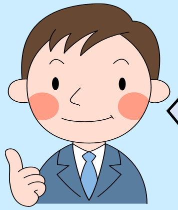
□　感じたことや想像したことを書く際に、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動を設定する。

# 授業アイディア例１

自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめた上で、自分の考えだけでなく、その理由も記述するような学習活動

第１学年で「B　書くこと」の（１）ウの指導事項について指導する例

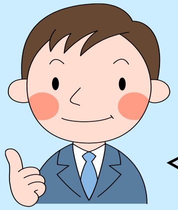
①　学習の見通しを立てる。



意見文を書くときには、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切です。今日は魚を食べることを呼びかけるポスターとして、ＡとＢのどちらのポスターを掲示するとよいと思うかについて文章を書きます。
このとき「Ａのポスターがよいと思う。」という考えだけ書けばよいでしょうか。

Ａのポスターがよいと思う理由も書く必要があると思います。そうすることで、考えがより伝わるようになると思います。

生徒Ｃ



そうですね。意見文を書くときは、自分の考えが伝わる文章になるように、理由も記述する必要があることを意識しながら取り組みましょう。

# 授業アイディア例１

②　ＡとＢのポスターの特徴を捉え、どちらのポスターがよいと思うかという意見とその理由を各自で考え、グループで交流する。

〔交流している場面の例〕

生徒Ｄ

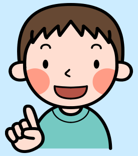
Ａのポスターがよいと思います。「魚を食べていますか？」という問いかける表現があって、見る人に考えさせる効果があると思うからです。

生徒Ｃ

私もＡのポスターを選びました。問いかける表現があるのもよいですね。私は、魚の手軽な食べ方を説明しているというよさを、理由として示そうと思います。

生徒Ｅ

確かに、手軽な食べ方を説明していると、ポスターを見た人が実際に食べてみようという気持ちになるかもしれません。

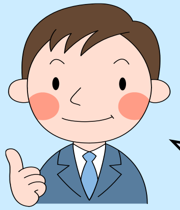

生徒Ｃ

「ポスターを見た人が実際に食べてみようという気持ちになる」まで理由として示すと、より考えが伝わりますね。

③　どちらのポスターがよいと思うかを説明する文章を書く。

# 授業アイディア例１

④　書いたものを読み合い、考えが伝わる文章になっているか確認する。



書いた意見文を読み合って、考えがよく伝わる文章になっているか確認しましょう。

〔交流している場面の例〕

生徒Ｆが書いた文章の例

Ｂのよさは魚の栄養を表にまとめてあり、魚が体によいことが見る人に伝わりやすいということです。

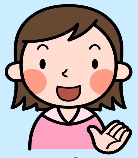
Ｂのポスターのよさは分かりました。しかし、どちらのポスターがよいかが、明確に書かれていません。どちらのポスターがよいと思うのかという考えを書くとよいと思います。

生徒Ｄ

生徒Ｇが書いた文章の例

魚は栄養が豊富である。私は、Ａのポスターを掲示して、魚の魅力を多くの人に伝えたいと思う。

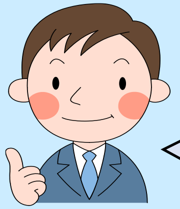
Ａのポスターがよいという考えは分かりました。加えて、Ａのポスターのよさを示し、考えの理由を書く必要があると思います。そうすれば、Ａのポスターがよいという考えがより伝わると思います。



生徒Ｅ

# 授業アイディア例１

⑤　学習を振り返る。



自分の考えが伝わる文章にするために、どのようなことに気を付けるとよいでしょうか。
文章を書いたり、友達と交流したりして気付いたことを振り返ってみましょう。

文章の中に、自分の考えだけでなく、その理由も書くように気を付けるとよいと思います。理由を書くことで、より自分の考えが伝わる文章になりました。

生徒Ｃ

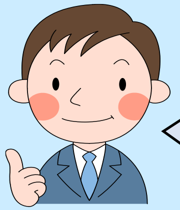
書いた文章を生徒同士で読み合う際は、確認するポイントを示したり、チェックシートを配付したりすることで、考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるか確認できるようにする。

# 授業アイディア例２

**自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動**

第２学年で「B　書くこと」の（１）ウの指導事項について指導する例

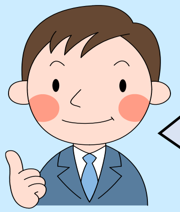
①　学習の見通しを立てる。



体験を基に、身近なものを登場人物にした物語を創作します。
物語の創作を通して、描写をどのように工夫すると、伝えたいことが効果的に伝わるようになるのかを考えてみましょう。

②　物語の構想を練る。

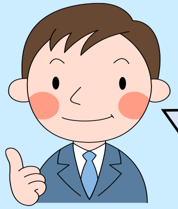
③　表現の効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。



伝えたいことを読み手に伝えるために、どのように描写を工夫すればよいのかを考えて、物語を書きましょう。後で、描写の工夫について検討するので、ここでは自分なりに工夫した描写になるようにしてください。また、工夫したところや、ねらいたい効果などはメモをしましょう。

# 授業アイディア例２

④　書いた物語をグループで読み合い、描写の工夫について検討する。



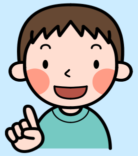
書いた人は、自分が文章のどこを工夫したのかを言いましょう。読んだ人は、その工夫が自分にはどのように伝わったのかを返しましょう。改善のアイディアがあれば、出し合ってみましょう。

〔交流している場面の例〕

生徒Ｈ

私は語り手をサッカーボールにしました。「明日の大会で勝利する予感」を表現するために、最後の一文を「僕は夕日に向かって転がりました。」としたのですがどうですか。

その表現だと、練習が終わって緊張から解放された感じと、満足感が伝わってきます。「明日の大会で勝利する予感」を表現するには、明るい色や光を取り入れた描写にしてみてはどうですか。



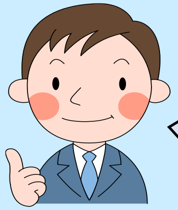
生徒Ｉ

生徒Ｈ

なるほど。「僕は、オレンジ色の夕日に向かって転がりました。」にしてみようと思います。

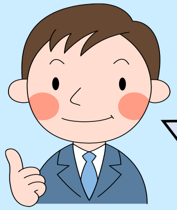
# 授業アイディア例２

⑤　物語の下書きを推敲し、清書する。



読み手の立場に立って、伝えたいことが効果的に伝わる表現になっているかを考え、よりよい表現になるように工夫しながら、文章を整えましょう。また、表現を変えたところは、なぜ変えたのかメモをしておきましょう。

⑥　学習を振り返る。



物語を書く中で、どのような効果をねらって、どのような表現の工夫をしましたか。また、表現をより効果的にするためには、どのようなことが大切だと思いましたか。振り返ってみましょう。

物語の下書きを書くときや清書する際に、修正が容易にできるように１人１台端末の文章作成ソフトを活用したり、グループで読み合う活動をする際に１人１台端末の共有機能を活用したりするなど、ICTを効果的に活用するようにする。

# 5　同一生徒の経年比較

# 5　同一生徒の経年比較



## 〈 R６全国調査結果とR５県調査結果との比較 〉

| 観点 | 事項及び領域 | R6全国調査対全国比 | R5県調査対全国比 | R6-R5 |
|---|---|---|---|---|
| 知識・技能 | (1)　言葉の特徴や使い方に関する事項 | 0.95 | 0.97 | －0.02 |
| | (2)　情報の扱い方に関する事項 | 0.98 | 0.96 | +0.02 |
| | (3)　我が国の言語文化に関する事項 | 0.97 | 0.96 | +0.01 |
| 思考・判断・表現 | A　話すこと・聞くこと | 0.93 | 0.94 | －0.01 |
| | B　書くこと | 0.93 | 0.87 | +0.06 |
| | C　読むこと | 0.93 | 0.92 | +0.01 |

※全国調査には目標値が設定されていないため、対全国比での比較

※対全国比
（県平均正答率÷全国平均正答率）

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、上記の事項及び領域で改善が見られた。

# 6　おわりに

# 6　おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

◆ 話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるようにする。

◆ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるようにする。

◆ 自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるようにする。

## 全ての教科の授業において、指導改善を図る！

○　基礎的・基本的な知識・技能の定着
・既習の知識・技能を活用し、課題を解決するなどの学習活動の設定

○　自分の考えを表現する学習活動の充実
・根拠を明らかにし、これまで学習した事柄、各教科ならではの言葉を使って表現する学習活動の設定
・生徒同士が話し合い、考えをよりよいものにしていく学習活動の設定

○　より考えを深める発問の工夫
・「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問
・複数の読み取ったことを関連付けて考える発問

本資料で示したものは、佐賀県全体の調査結果です。各学校においても、分析を行い、生徒の実態を踏まえた指導改善を図っていきましょう。